

あきる野市の現状について（強み・弱み・プラスの外部要因・マイナスの外部要因） 資料 1

◆昨年度調査（あきる野市次期総合計画基礎調査報告書102頁）時点での整理
・第1回審議会でのご意見を踏まえ、下記の整理に至った根拠データを次頁以降に整理しました。

【あきる野市の強み（S）】 ① 東京都の縮図のような多様な環境（都市環境、山林、川） ①②③ 恵まれた自然環境 ① 比較的安価な地価 ①④ 豊富な観光資源（東京サマーランド、秋川渓谷、バーベキュー場等） ①⑤ 一般国道468号（圏央道）の整備効果による高い交通利便性と交通量の増加 ① 町内会・自治会加入率の高い地区が多い ① 地域コミュニティの強さ ⑥ 良好な治安（多摩地域内でも相対的に低い刑法犯認知件数） ⑦ 都内屈指の長い健康寿命 ⑧ 先端技術（ドローン）活用に向けた研究・開発	【プラスの外部要因（O）】 ☐ 地方創生の推進 ☐ 持続可能な開発目標（SDGs）の推進 ☐ 働き方改革の推進による一億総活躍社会の進展 ☐ インバウンド観光の活況とコト消費の広がり ☐ シェアリングエコノミーの広がり ☐ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催 ☐ 「関係人口」の増加 ☐ ICT、IoT、AI活用の進展
【あきる野市の弱み（W）】 ⑨ 自然動態（出生減・死亡増）の悪化に伴う人口減少 ⑨ 人口減少に伴う空き地や空き家増加の懸念 ①⑩ 商店街組織等の衰退 ⑪ 農業経営者の高齢化 ①⑫ 市内外へのアクセスの不便さ ①⑬ 高齢化の進展等に伴う市民活動の停滞 ⑭ 老朽化した公共施設等の更新 ⑮ 財政基盤の弱さ（実質公債費比率、将来負担比率等）	【マイナスの外部要因（T）】 ■ 全国的な人口減少・少子高齢化の進展 ■ 地方創生の本格化がもたらす自治体間競争の激化（定住人口増加策、シティプロモーション戦略の展開） ■ 人口減少に伴う消費縮小と人手不足の深刻化 ■ 社会資本の老朽化 ■ ICT、IoT、AI活用に伴う社会変化への対応（産業・就業構造の転換に対応できない労働者が発生した場合のフォロー等）

※表中の番号は、次頁以降の調査結果と対応しております。

あきる野市の現状について（強み・弱みの根拠となったデータ）

①あきる野市職員から見た、あきる野市の強み・弱み、資源について（職員意識調査）

○強み・弱みの傾向を分析すると、いずれも「都市整備」に関連するものが多くなっています。
○強みにおいては、都内にあっても比較的 natura が豊かであり、地価が安価であることから、居住・事業環境としての魅力が高いと認識されていることが読み取れます。
○弱みにおいては、公共交通（電車、バス）の利便性の低さによって、魅力が十分に発揮されていないと捉えられていることが読み取れます。

◆あきる野市の強み

分野	意見数	主な意見（抜粋）
都市整備	241	○東部に都市環境、西部に山林、市域南部に川が流れるという東京の縮図のような多様な環境 ○交通アクセス（圏央道）の利便性 ○都内にあっても恵まれた自然環境 ○比較的安価な地価 ○住宅や工場等の土地利用が可能な土地が多い
産業振興	50	○観光資源が豊富（秋川渓谷、温泉施設、東京サマーランド、バーベキュー場、ハイキング場等） ○特産品や名産品（野菜、秋川牛等） ○観光・レジャー地としての都心とのアクセスの利便性 ○多くの農地が保全されている
生活環境	185	○地域コミュニティの強さ（町内会・自治会加入率が高い地区が多い） ○大規模な災害が少ない ○治安が良い ○豊かな自然
保健福祉	14	○健康寿命が高い ○健康づくりに関わる市民の協力体制 ○豊かな自然の中での子育て環境 ○公立学校等での個別指導の充実
教育文化	16	○歴史文化史跡等の資源(五日市憲法草案、阿伎留神社等) ○国内外3つの友好姉妹都市・友好都市 ○伝統芸能の継承
行財政	11	○各種委員等、住民の協力や支援 ○市民と連携の取れる市職員が多い

◆あきる野市の弱み

分野	意見数	主な意見（抜粋）
都市整備	236	○公共交通による都心部へのアクセスの不便さ（電車本数の少なさ、乗り継ぎの利便性の低さ等） ○市内のバス交通網の不便さ ○不動産価値の低さ
産業振興	51	○産業集積の不足 ○商業施設や商店街の衰退 ○観光資源や名産品の知名度の低さ
生活環境	8	○高齢化に伴い、地域のつながりの維持が難しい ○郷土愛の低さ ○活発に活動する市民団体が少ない
保健福祉	3	○福祉分野で独自の取組が少ない ○低所得者の割合が高い（都内の自治体の中） ○子どもに対する福祉が充実していない
教育文化	4	○学業環境の低さ ○学校数が少ない ○学力に課題がある
行財政	100	○財政基盤の脆弱さ ○市の知名度の低さ（発信力の強化） ○老朽化した市有建築物と設備

あきる野市の現状について（強み・弱みの根拠となったデータ）

②土地利用状況

○平成24・29年度ともに、「山林・原野」が全体の65.7%を占めています。
○平成24年度と平成29年度を比較すると、「宅地」が3.0%増加しています。

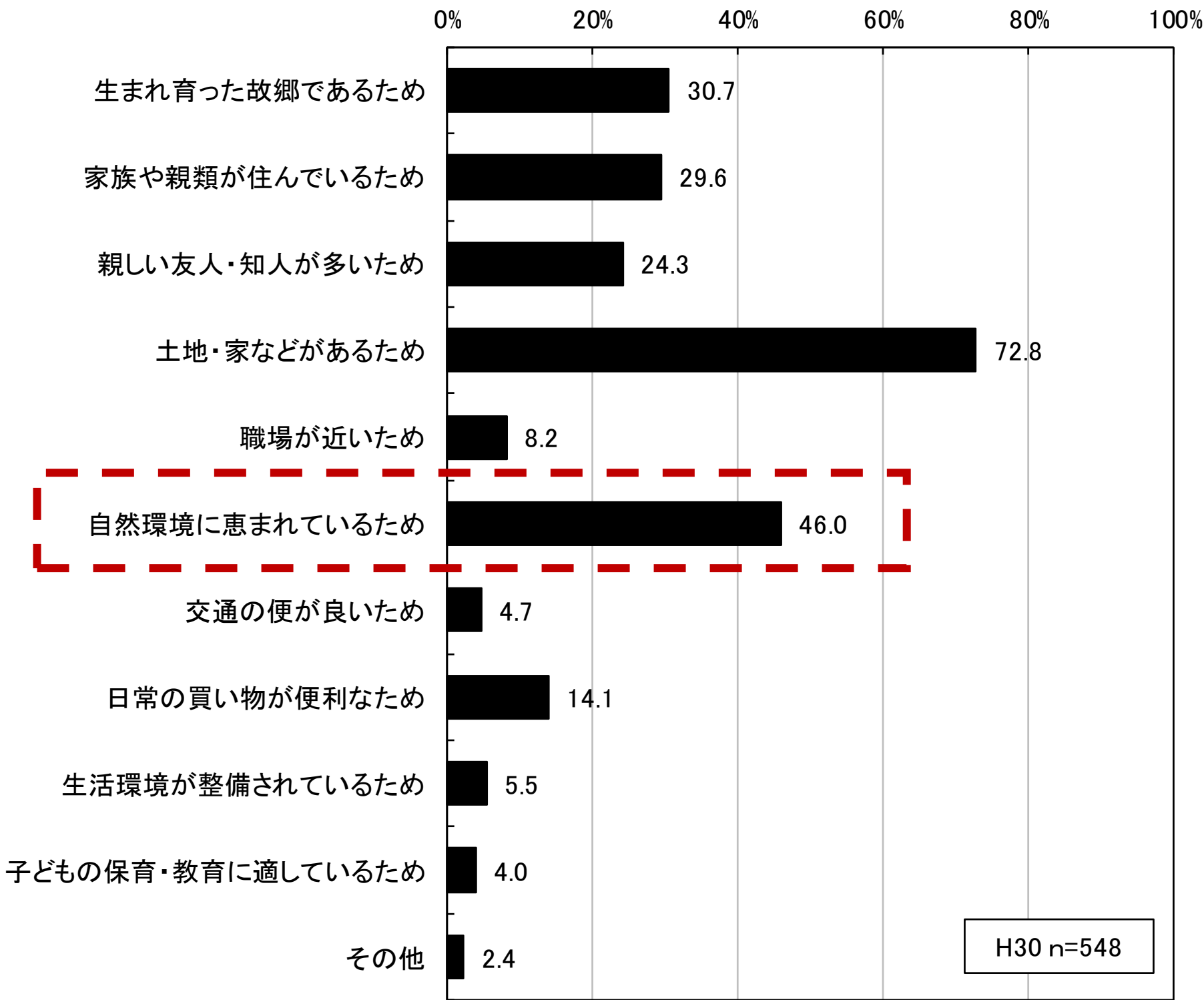
	平成24年度		平成29年度			
	面積(ha)	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)	対平成24年比	
					増減面積(ha)	増減率(%)
宅地	952	13.0	980	13.4	28	3.0
農地	495	6.8	481	6.5	-15	-2.9
山林・原野	4,818	65.7	4,825	65.7	8	0.2
公有水面等	142	1.9	142	1.9	0	0.2
公共施設等	649	8.9	650	8.9	1	0.2
その他	278	3.8	263	3.6	-15	-5.4

出典：都市整備部都市計画課（各年1月1日時点）

あきる野市の現状について（強み・弱みの根拠となったデータ）

③あきる野市に住み続けたい主な理由（市民アンケート）

○「土地・家などがあるため」が72.8%と最も多く、次いで「自然環境に恵まれているため」が46.0%を占めています。



④あきる野市内における目的地検索ランキング上位の観光資源・施設（地域経済分析システム）

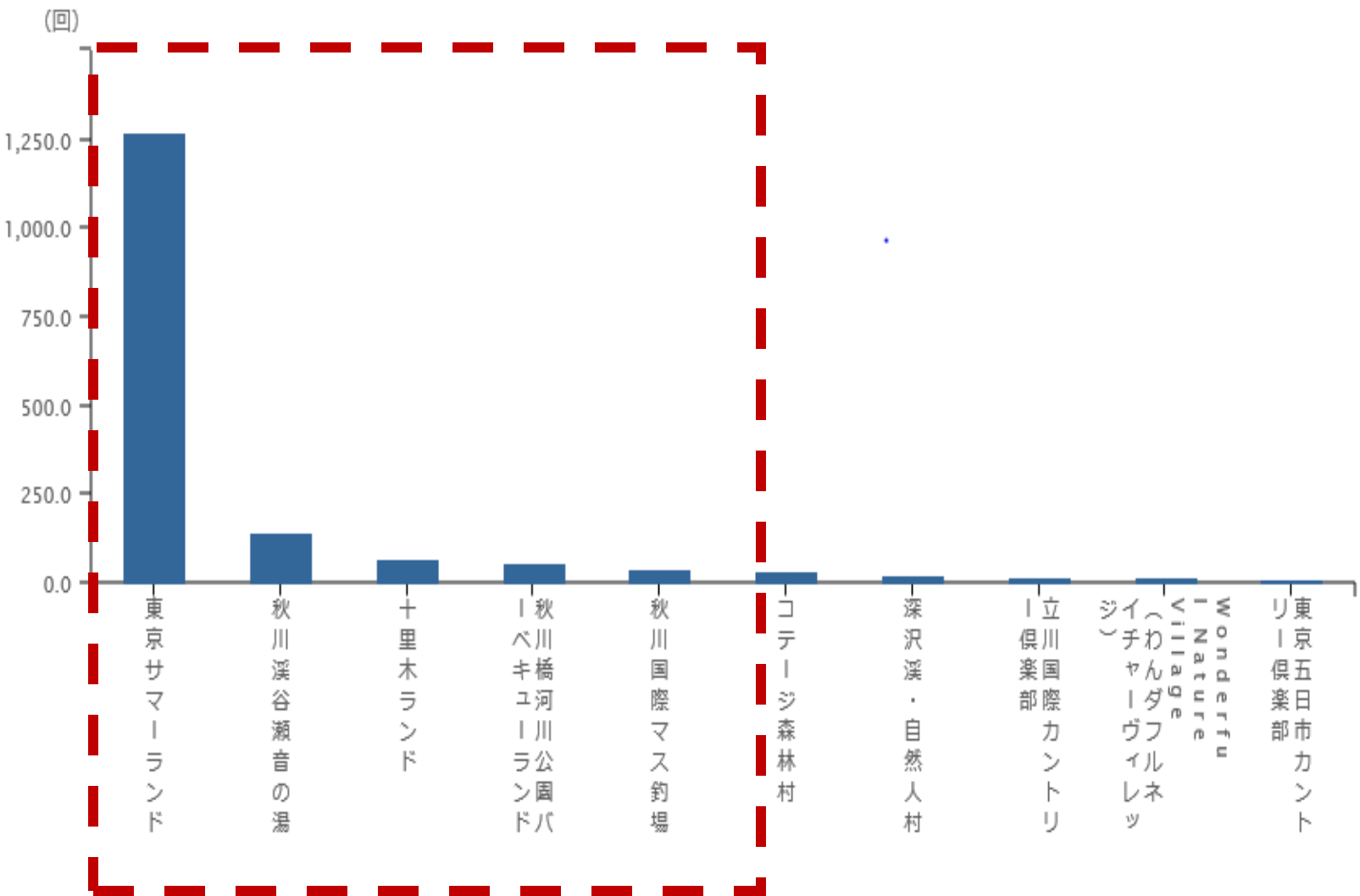
○目的地検索ランキング（対象：観光資源、温泉、レジャー施設等）を見ると、東京サマーランド、瀬音の湯、十里木ランド、秋川橋河川公園バーベキューランド、秋川国際マス釣り場が上位を占めています。

指定地域の目的地一覧

表示年月：2016年8月（休日）

指定地域：東京都あきる野市

交通手段：自動車



【出典】株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

【注記】検索回数は、同一ユーザの重複を除いた月間のユニークユーザ数。下記条件に全て該当した場合にのみ表示。

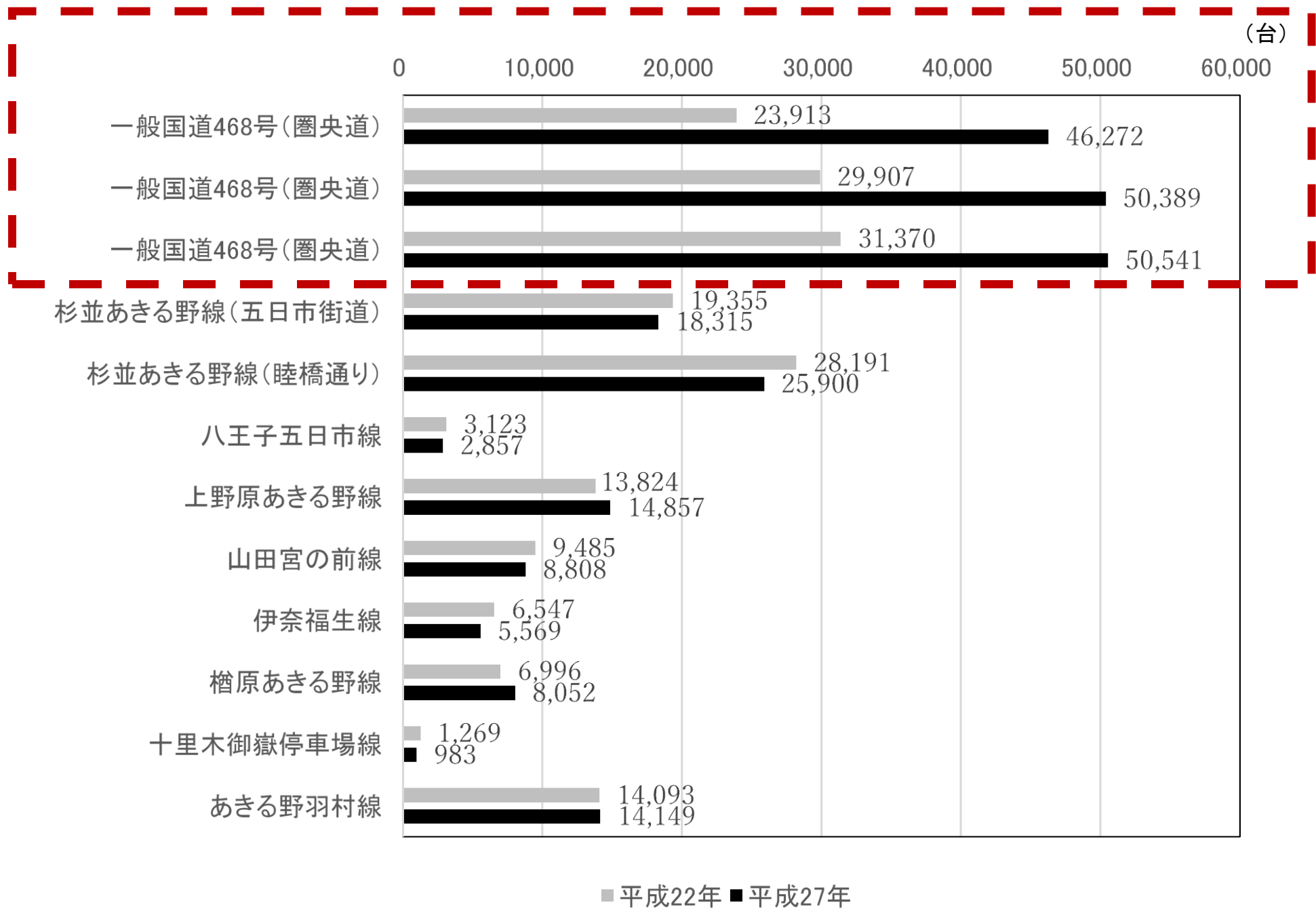
- ・施設分類が、観光資源、宿泊施設や温泉、広域からの集客が見込まれるレジャー施設や商業施設に該当
- ・年間検索回数が自動車は50回、公共交通は30回以上
- ・年間検索回数が全国1000位以内または都道府県別50位以内または市区町村別10位以内

(C) NAVITIME JAPAN

あきる野市の現状について（強み・弱みの根拠となったデータ）

⑤道路（主要道路交通量）

〇市内の主要路線交通量を見ると、平成22年に比べて平成27年は、一般国道468号（圏央道）の交通量が1.6倍から1.9倍に増加しています。これは、平成22年以降、東名高速と中央道を接続する路線や常磐道と東関東道を接続する路線が相次いで開通し、圏央道の利便性が高まったことが背景にあると考えられます。



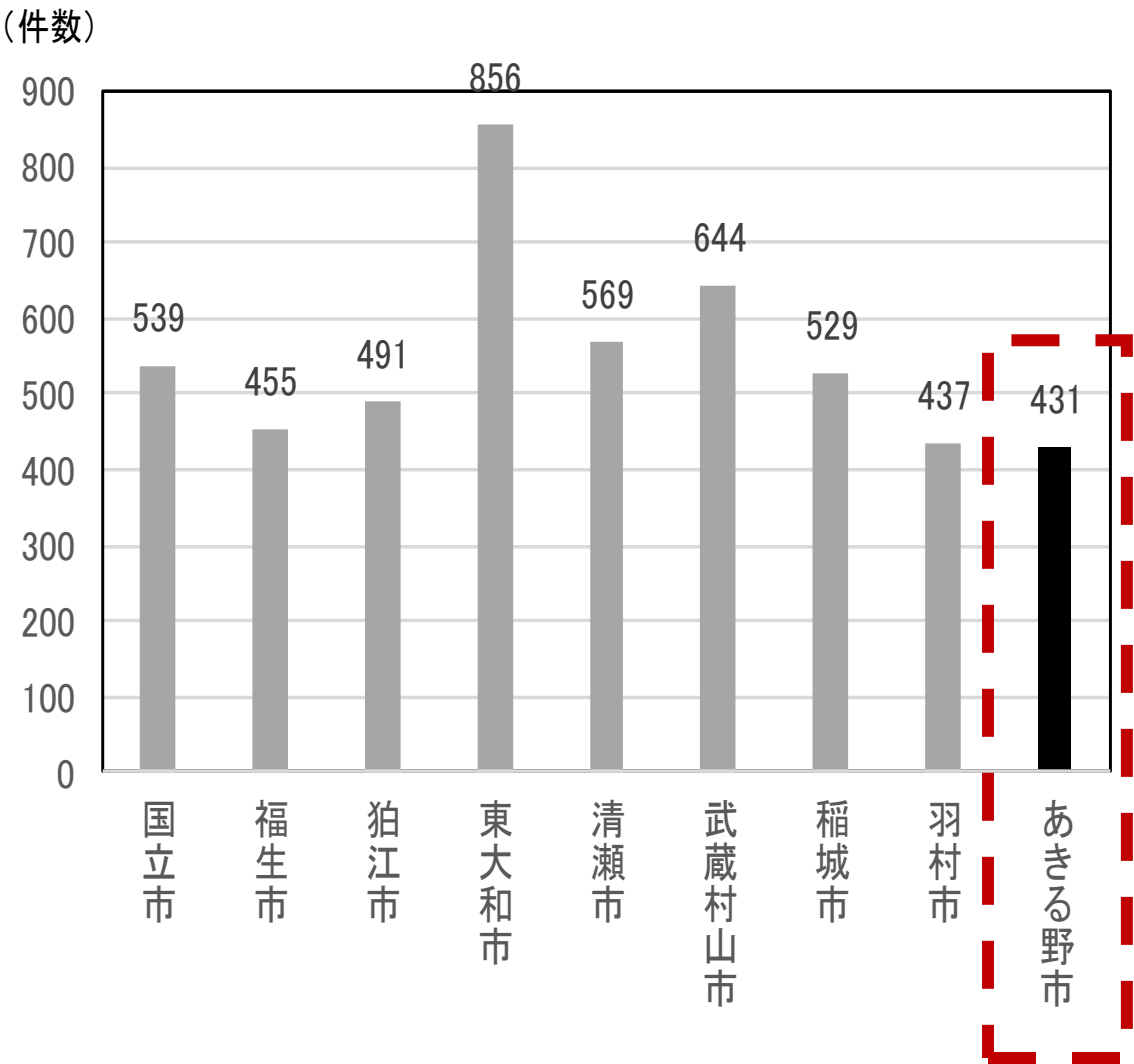
出典：国土交通省「全国道路交通センサス」（平成27年）

あきる野市の現状について（強み・弱みの根拠となったデータ）

⑥治安（刑法犯認知件数）

○平成29年における刑法犯認知件数を都市間比較（※）すると、本市の刑法犯認知件数及び人口千人当たりの認知件数は最も低くなっています。

	認知件数 (件)	平成29年 1月1日人口 (人)	人口千人当たり 認知件数	
			順位	認知件数 (件)
国立市	539	73,943	6	7.3
福生市	455	55,195	3	8.2
狛江市	491	79,639	7	6.2
東大和市	856	84,855	1	10.1
清瀬市	569	73,374	5	7.8
武蔵村山市	644	70,811	2	9.1
稲城市	529	87,906	8	6.0
羽村市	437	55,011	4	7.9
あきる野市	431	80,663	9	5.3



（※）類似団体（人口5万人以上10万人未満、産業構造Ⅱ次・Ⅲ次95％未満かつⅢ次55％以上の団体）のうち、東京都内の自治体を都市間比較の対象として抽出

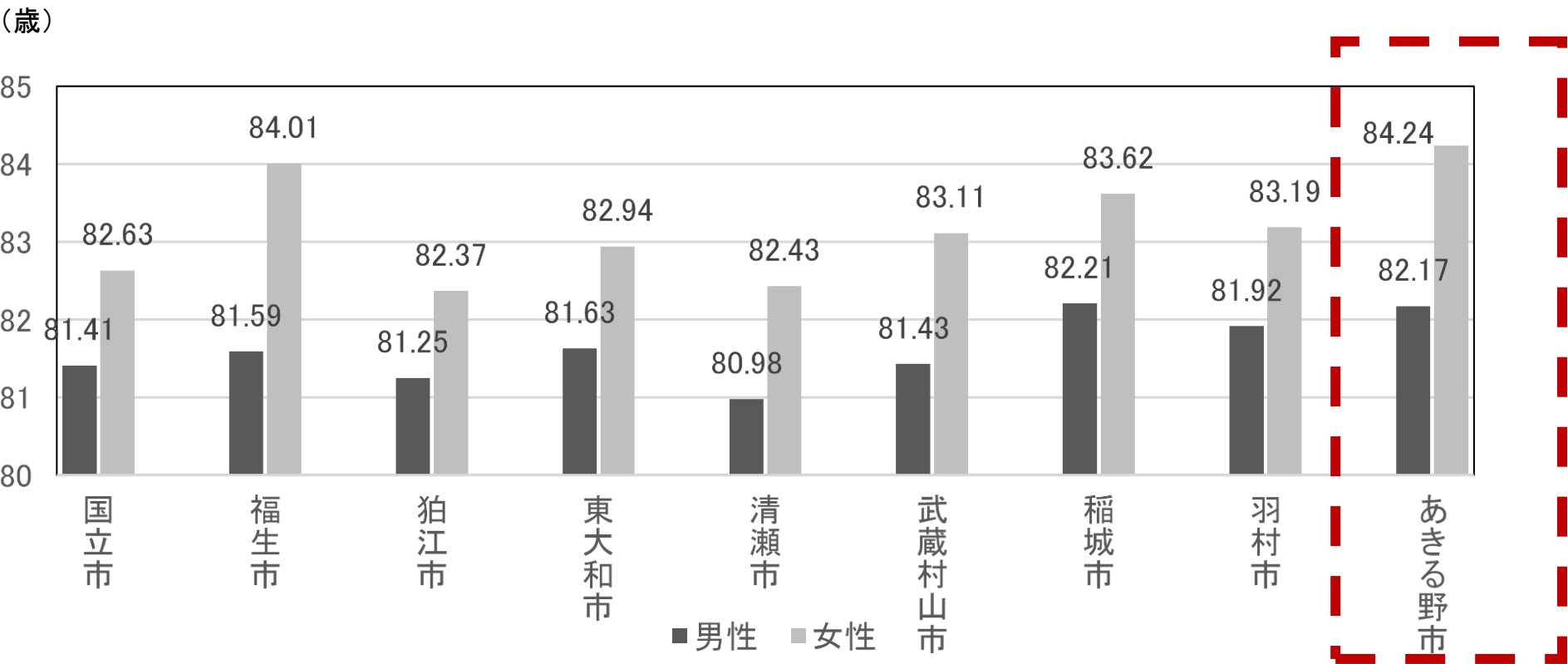
出典：警視庁「区市町村の町丁別、罪種別及び手口別認知件数」

あきる野市の現状について（強み・弱みの根拠となったデータ）

⑦健康寿命（65歳以上の人が必要支援1以上の認定を受けるまでの期間）

○平成28年における健康寿命を都市間比較すると、本市は、男性では2番目に、女性では最も健康寿命が長くなっています。

	男性		女性	
	順位	健康寿命(歳)	順位	健康寿命(歳)
国立市	7	81.41	3	82.63
福生市	5	81.59	2	84.01
狛江市	8	81.25	9	82.37
東大和市	4	81.63	7	82.94
清瀬市	9	80.98	8	82.43
武蔵村山市	6	81.43	6	83.11
稲城市	1	82.21	4	83.62
羽村市	3	81.92	5	83.19
あきる野市	2	82.17	1	84.24



出典：東京都福祉保健局「都内各区市町村の65歳健康寿命」

あきる野市の現状について（強み・弱みの根拠となったデータ）

⑧先端技術（ドローン）活用に向けた研究・開発

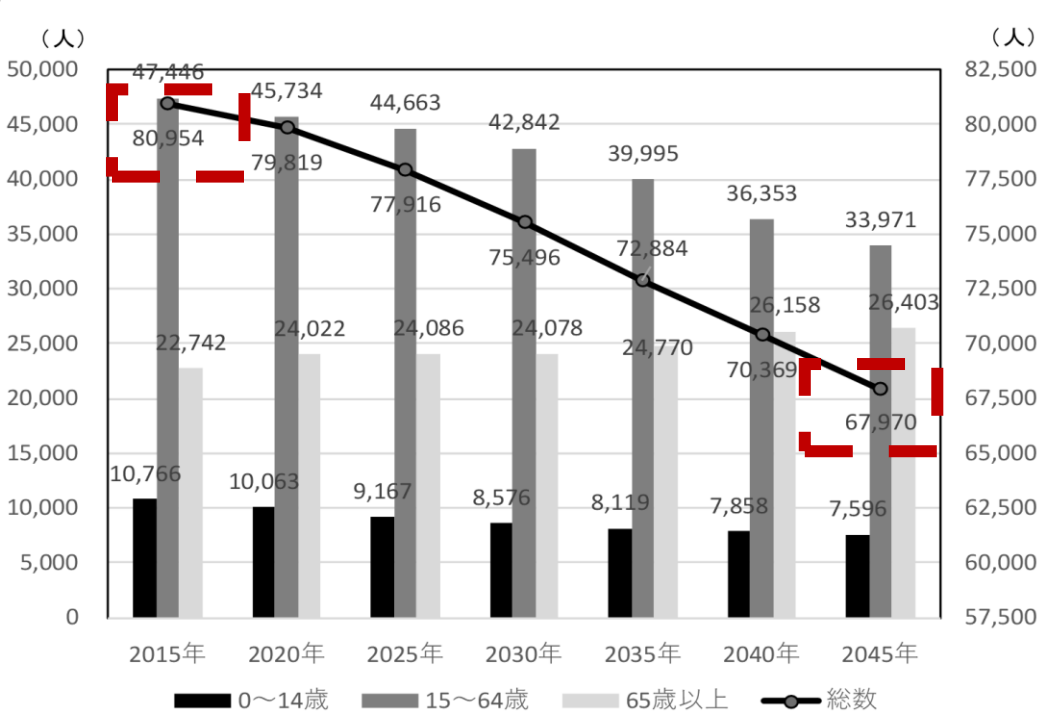
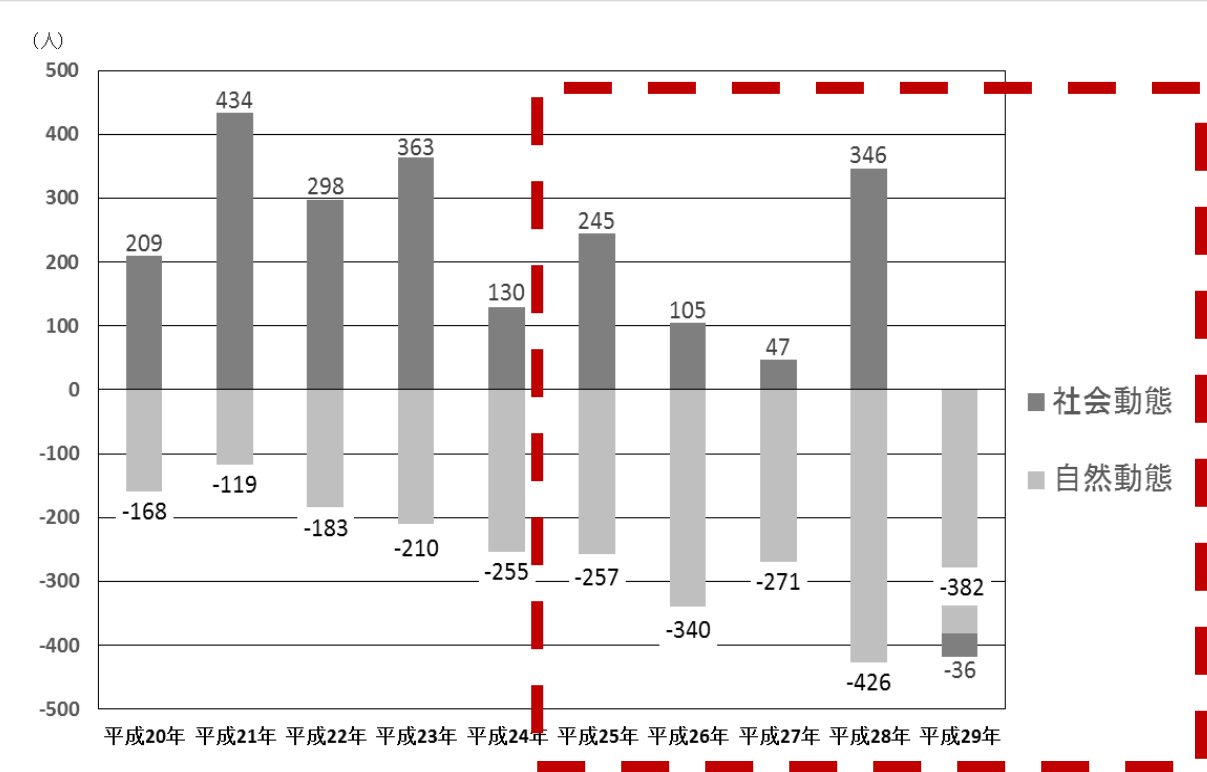
○安心・安全なまちづくりの取組の一環として、官民共同で災害発生時の情報収集や支援物資輸送、人命救助等の際のドローン活用の研究・開発を進めており、平成28年10月には防災、環境、農林業、観光、建設等各部門の施策・事業を円滑に推進するための「あきる野市ドローンパイロットチーム」を設置し、パイロットチームのメンバーを対象としたドローン操縦訓練を実施しています。



ドローンを活用した山岳救助及び研究に関する連携・協力についての合意書の締結

⑨自然動態の悪化に伴う人口減少

○本市の人口増減に対する影響度を見ると、これまでの人口増加を支えていた大きな要因は、社会動態であることが分かる一方、近年は自然動態の与える負の影響（出生数減少と死亡数増加による自然減）が大きくなっています。
○今後の人口の見通しを見ると、2030年には総人口は75,496人、高齢化率は31.9%となります。2045年の総人口は、67,970人となり、2015年と比較すると約16%減少する見通しです。

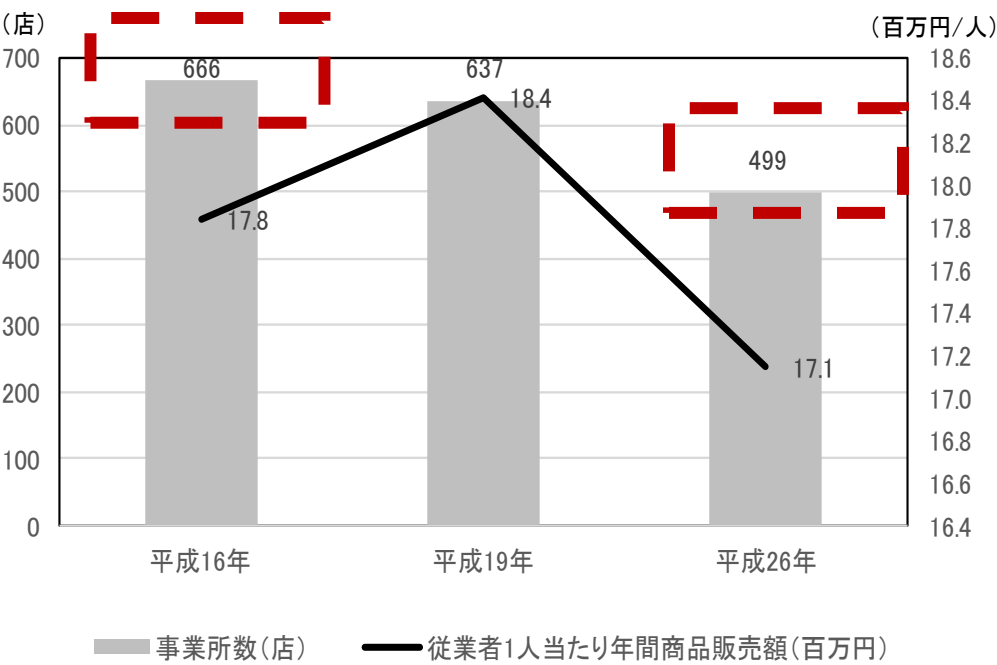


出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口（平成30年推計）」

あきる野市の現状について（強み・弱みの根拠となったデータ）

⑩商業（小売業・卸売業）

○事業所数は、一貫して減少傾向にあり、平成26年には499店となりました。
○商店街に係る団体数・組織数の減少など、商店街組織の衰退が見られ、商業振興の核又はアドバイザーとなる人材や組織の充実が必要と考えられます。



出典：経済産業省「商業統計調査」他

⑪農業（農家数・経営耕地総面積、農業経営者の年齢構成）

○農家数及び経営耕地総面積は減少傾向にあり、特に経営耕地総面積は、10年間で23,570アール(a)から13,456アール(a)に減少しています。
○農業経営者の年齢構成を見ると、75歳以上の占める割合は、平成22年の36.4%から平成27年の49.2%に増加しています。

	農家数(戸)						経営耕地総面積 (単位:a)
	総数	販売農家				自給的農家	
		総数	専業農家数	兼業農家数			
				農業を主 (第1種)	兼業を主 (第2種)		
平成17年	865	302	86	35	181	563	23,570
平成22年	806	253	48	57	148	553	17,600
平成27年	711	197	84	16	97	514	13,456

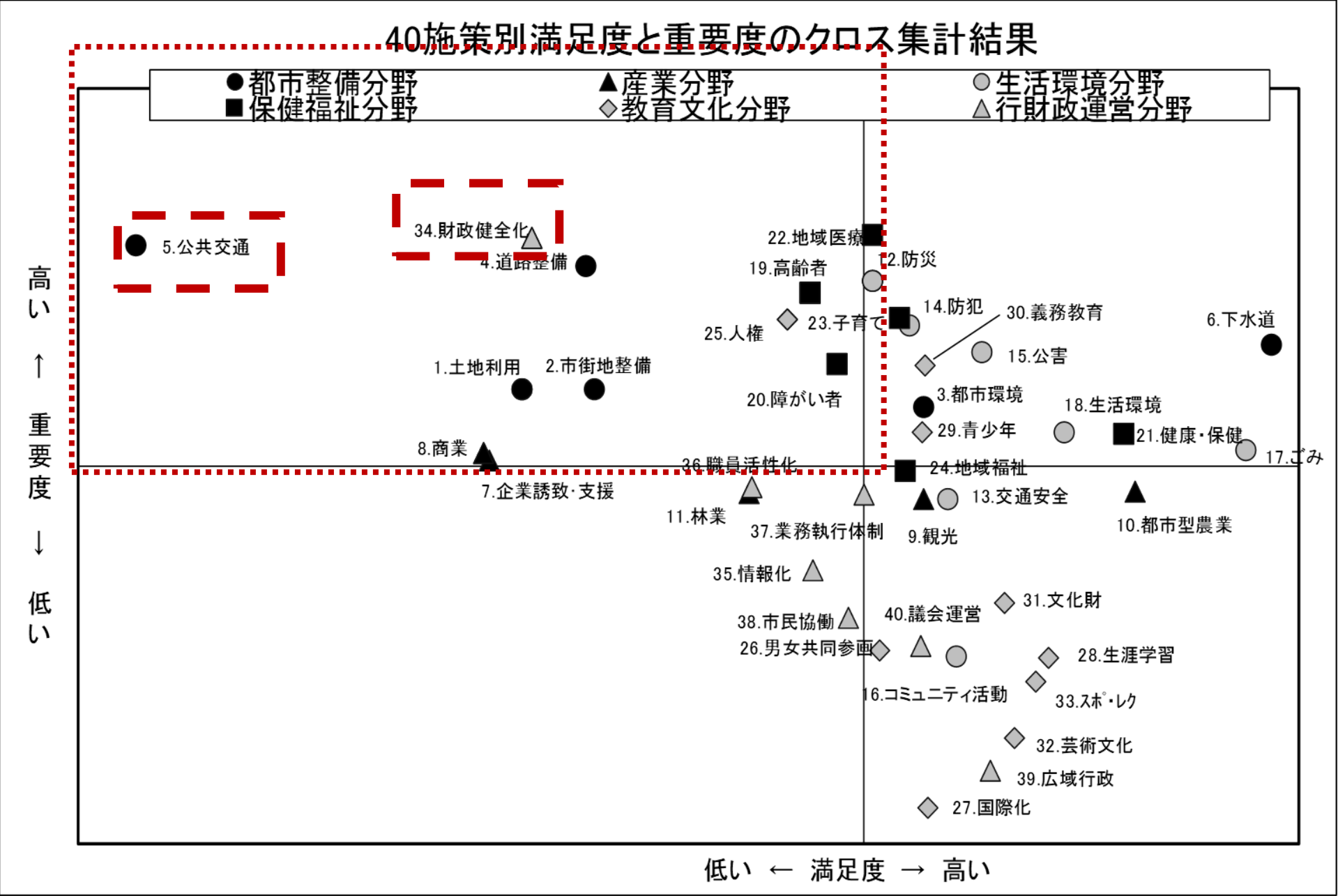
	あきる野市 (%)						
	15-24歳	25-34歳	35-44歳	45-54歳	55-64歳	65-74歳	75歳以上
平成22年	0	0	2.8	6.7	20.6	33.6	36.4
平成27年	0	0	1.5	7.6	16.8	24.9	49.2

出典：農林水産省「農林業センサス」他

あきる野市の現状について（強み・弱みの根拠となったデータ）

⑫施策の満足度・重要度（市民アンケート）

○満足度と重要度をクロス集計したところ、重要度は平均点以上にもかかわらず、満足度は平均点以下の施策について、分野別に見ると「都市整備」（公共交通網の整備、計画的な土地利用の推進等）や「保健福祉」（高齢者が安心して生活できる支援の充実、障がい者が安心して生活できる支援の充実）に属する施策が多く挙げられています。



・市で実施している40の施策について、それぞれの満足度と重要度を5段階で評価しています。40施策の評価結果のうち、「わからない」「無回答」を除く各施策の結果を数値化し、平均点を50点とした標準得点（偏差値）※を算出して、その結果を表及び散布図として表しました。

※標準得点（偏差値）：個々の施策の得点を、平均点が50点、標準偏差（平均からの隔たり）が10点の正規分布になるように換算して、ある施策の得点（評価結果）が全体の施策の中でどこに位置するかを示したものです。

あきる野市の現状について（強み・弱みの根拠となったデータ）

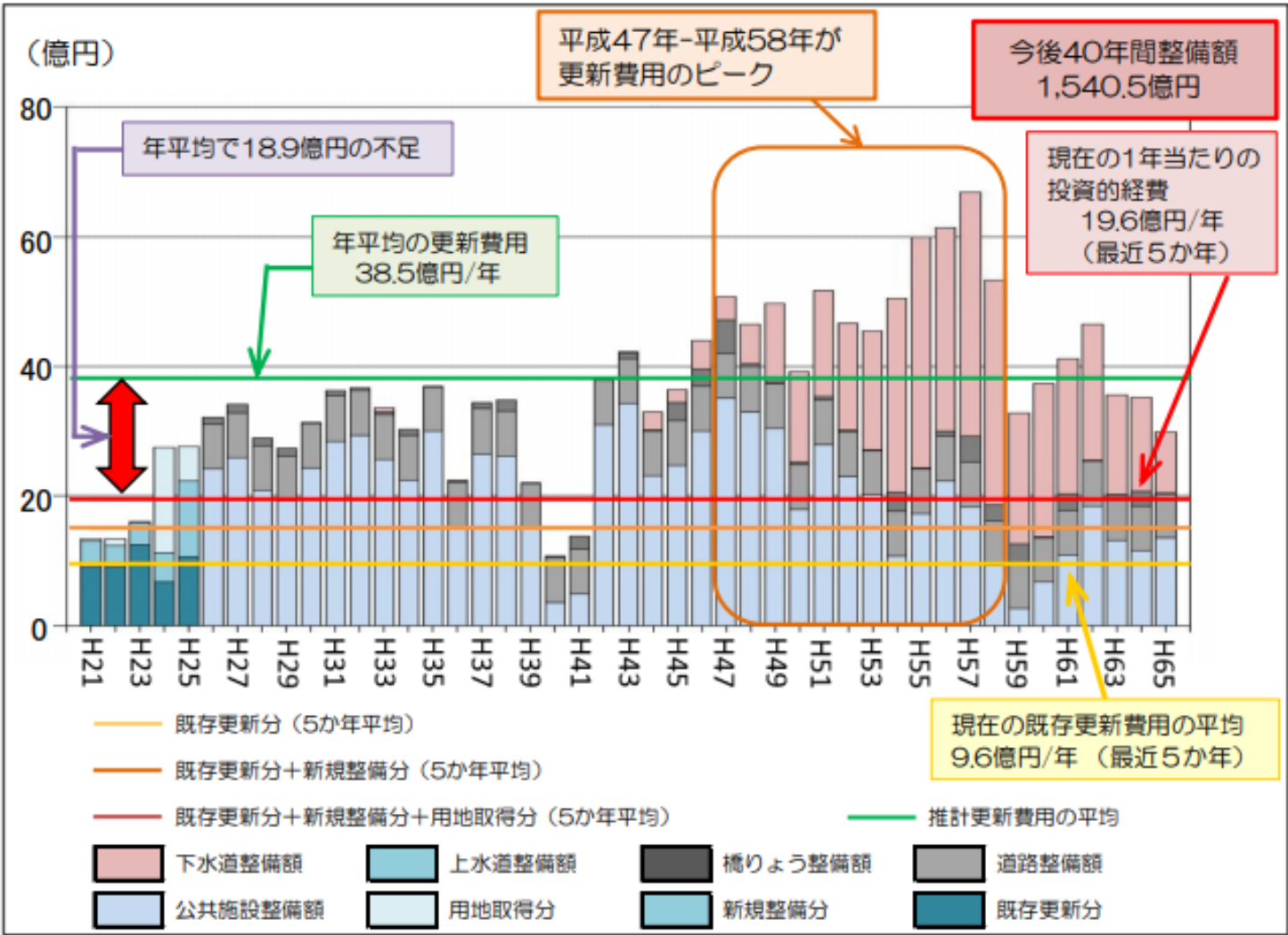
⑬市民活動の現状（各課で作成した施策調書に基づく整理）

- 少子高齢化や核家族化、共働き家庭の増加に伴い、地域におけるコミュニティ活動（町内会・自治会活動等）への参加者や担い手の高齢化や減少が進んでいます。
- 公園等の維持管理について、アダプト制度を導入し、一定の成果を得ているが、高齢化の影響等により、登録団体が減少しています。

⑭公共施設等の現状

○施設の老朽化に伴う様々な課題への対応とともに、長期的な視点で適正かつ総合的な公共施設等の管理を推進するため、平成28年に「あきる野市公共施設等総合管理計画」を策定し、公共施設等の適正な維持管理に関する基本方針を定めました。この中では、公共施設等の更新のピークを2035年から2046年までの時期と捉えており、年40億円以上の費用が必要になると試算しています。

【図-91 公共施設等の今後40年間の更新費用の推計】



あきる野市の現状について（強み・弱みの根拠となったデータ）

⑮主要財政指標

- 財政基盤の強弱を判断する財政力指数を見ると、平成26年度以降、緩やかな改善傾向にあります。
- 地方自治体の財政負担の適正度を示す実質公債費比率を見ると、一貫して増加傾向にあります。
- 将来的に財政が圧迫される可能性がどの程度高いかを示す将来負担比率を見ると、一貫して減少しており、改善傾向にあります。
- 財政構造の弾力性を判断する経常収支比率を見ると、ほぼ横ばいで推移しています。
- 平成29年度における主要財政指標を都市間比較すると、本市は、実質公債費比率及び将来負担比率が最も高く、相対的に見ても財政上の課題を抱えていることが分かります。

◆主要財政指標の時系列変化

	財政力指数	実質公債費比率(%)	将来負担比率(%)	経常収支比率(%)
平成26年度	0.71	7.0	66.3	96.0
平成27年度	0.72	7.3	61.8	93.7
平成28年度	0.73	7.8	53.7	98.8
平成29年度	0.74	8.5	51.5	98.9

※主要財政指標は以下のとおりです。
財政力指数：財政基盤の強弱を判断する指標
実質公債費比率：地方自治体の財政負担の適正度を示す指標
将来負担比率：将来的に財政が圧迫される可能性がどの程度高いかを示す指標
経常収支比率：財政構造の弾力性を判断する指標

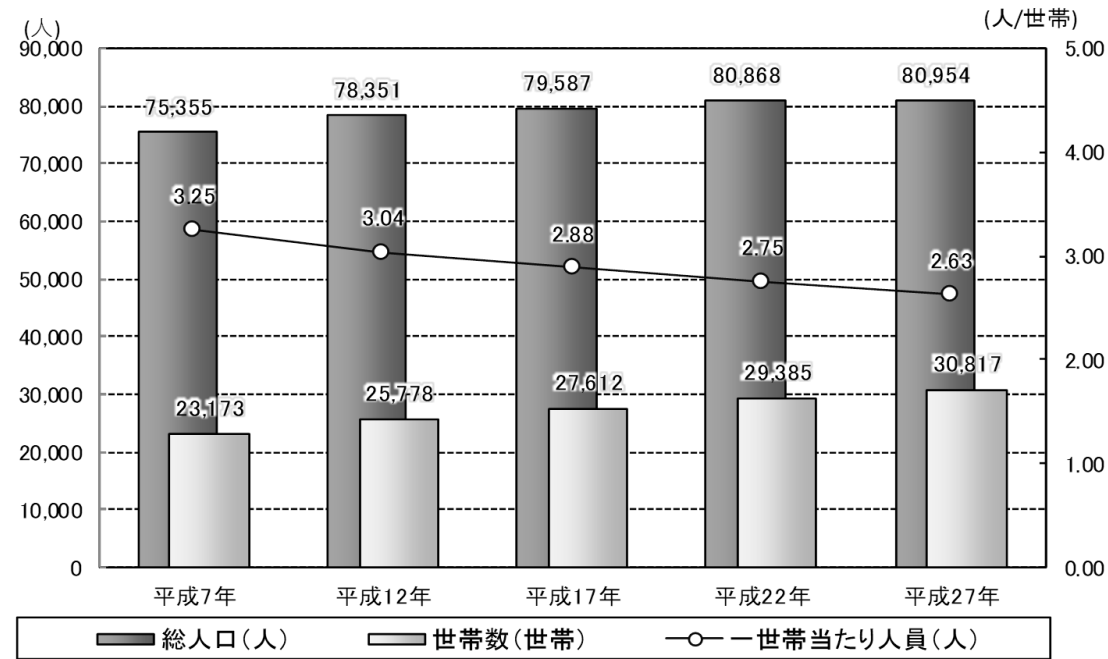
◆主要財政指標の都市間比較

順位	自治体名	財政力指数	順位	自治体名	実質公債比率(%)	順位	自治体名	将来負担比率(%)	順位	自治体名	経常収支比率(%)
1	国立市	1.025	1	福生市	-3.0	1	国立市	-	1	福生市	90.7
2	羽村市	1.017	2	東大和市	-2.6	1	福生市	-	2	清瀬市	91.1
3	稲城市	0.953	3	国立市	-1.4	1	東大和市	-	3	狛江市	91.2
4	狛江市	0.886	4	武蔵村山市	-0.3	1	武蔵村山市	-	4	稲城市	91.3
5	東大和市	0.865	5	羽村市	2.0	5	羽村市	5.3	5	東大和市	93.9
6	武蔵村山市	0.835	6	稲城市	2.1	6	狛江市	17.9	6	武蔵村山市	94.1
7	福生市	0.788	7	狛江市	2.5	7	清瀬市	28.4	7	国立市	95.1
8	あきる野市	0.740	8	清瀬市	4.1	8	稲城市	30.1	8	あきる野市	98.9
9	清瀬市	0.689	9	あきる野市	8.5	9	あきる野市	51.5	9	羽村市	105.8

あきる野市の現状について（その他の参考データ）

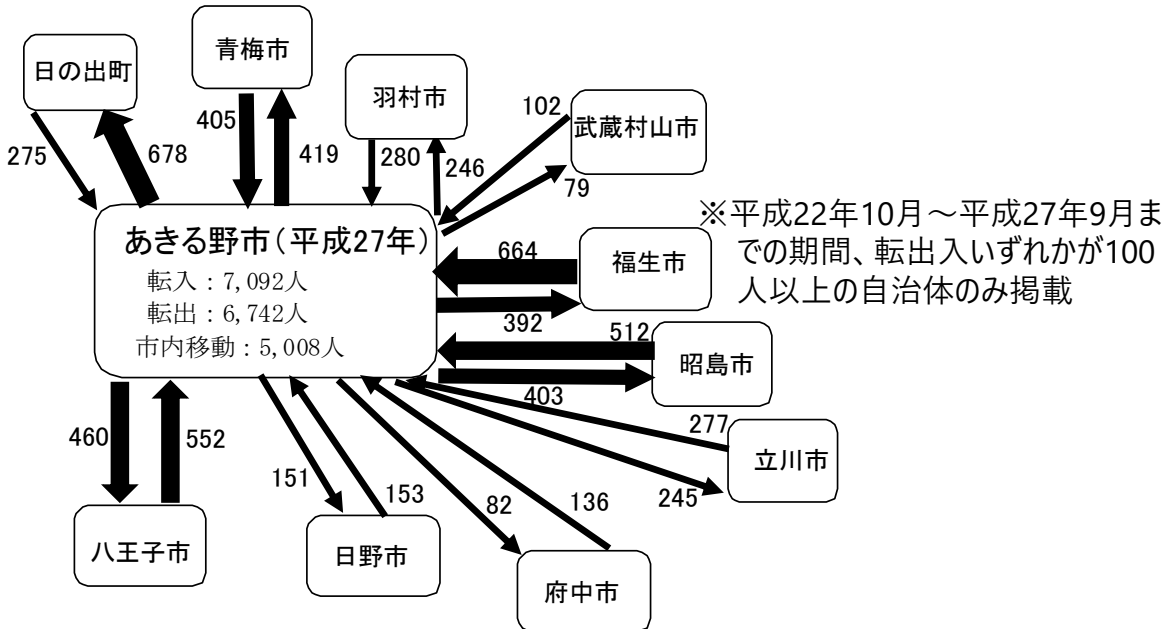
■人口動向（総務省「国勢調査」）

- ・人口、世帯数ともに増加傾向にありましたが、増加率は鈍化しており、減少傾向に転じる兆候が現れています。



■人口転出入（総務省「国勢調査（平成27年）」）

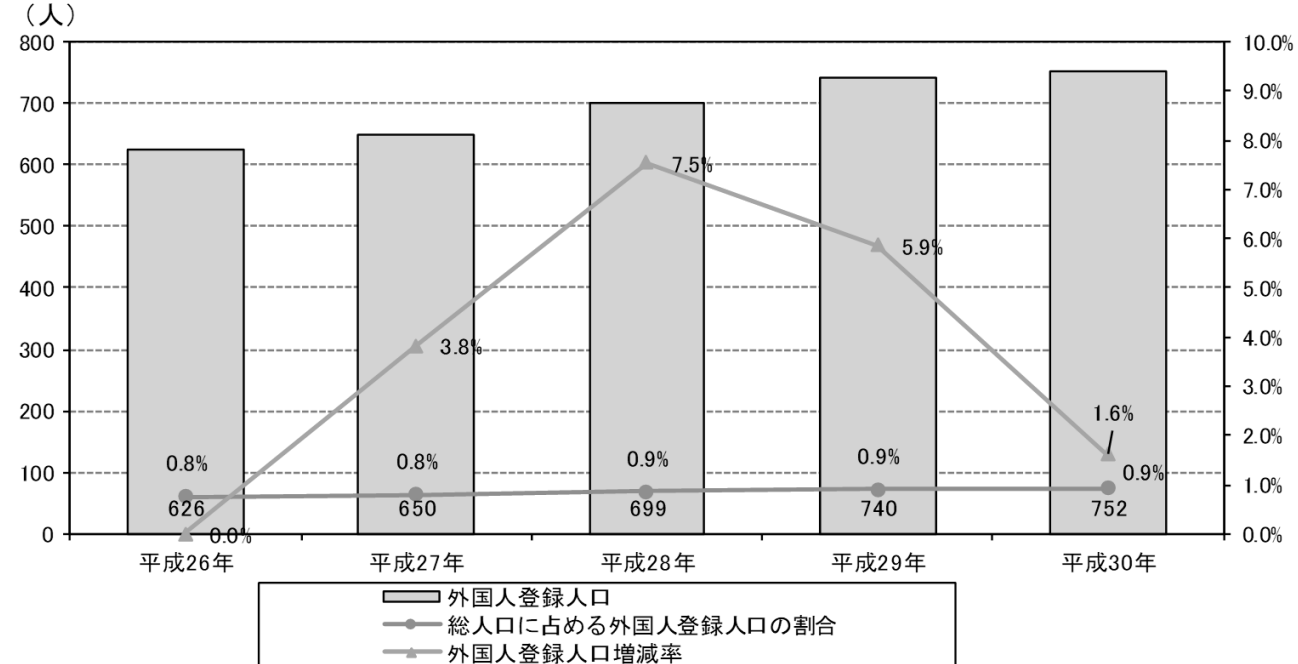
- ・転入数は、特別区部、福生市、八王子市の順に多く、転出数は、日の出町、特別区部、八王子市の順に多くなっています。差引を見ると、特別区部、福生市、昭島市の順に社会増となっていますが、日の出町に対しては、403人の転出超過となっています。



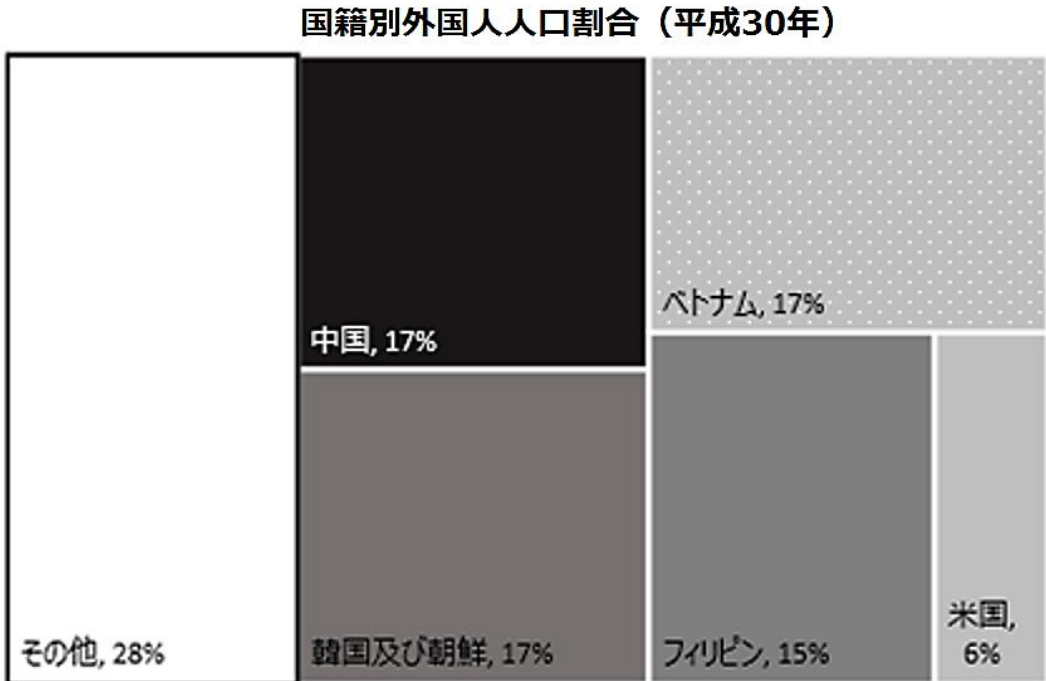
■外国人登録人口（市民部市民課）

- ・平成26年以降、外国人登録人口は、一貫して増加傾向にあり、総人口に占める割合も全体の約1%です。
- ・国籍別の外国人登録人口の割合を見ると、その他を除くと中国籍の方が最も多いですが、日本全体のトレンドと同様に、近年ベトナム籍の方が急増しています。

◆外国人登録人口推移（各年1月1日時点）



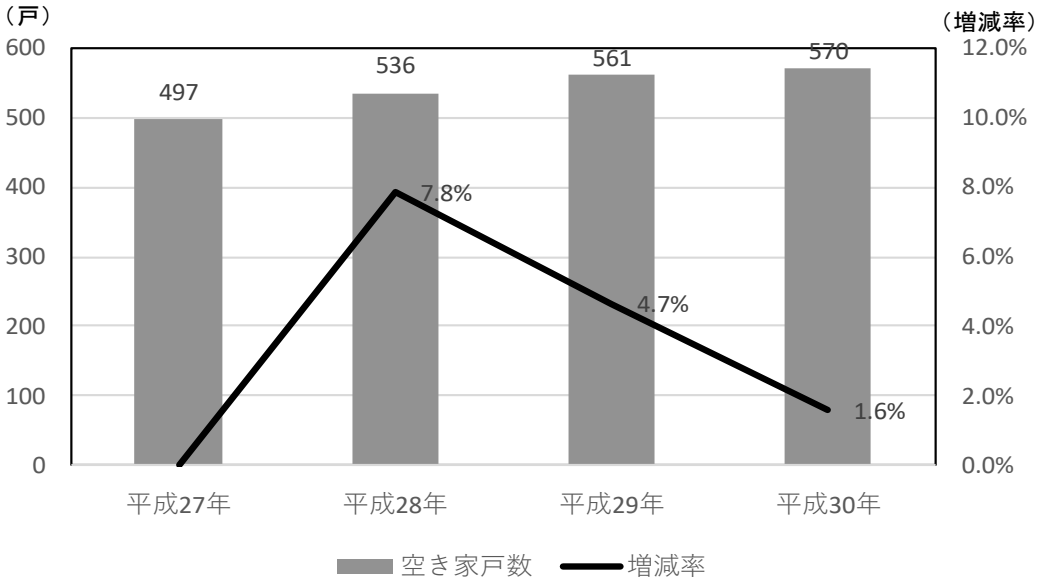
◆国籍別外国人人口割合（平成30年）



あきる野市の現状について（その他の参考データ）

■空き家（都市整備部都市計画課）

- ・空き家戸数は、平成27年以降増加傾向にありますが、増加幅は縮小傾向にあります。



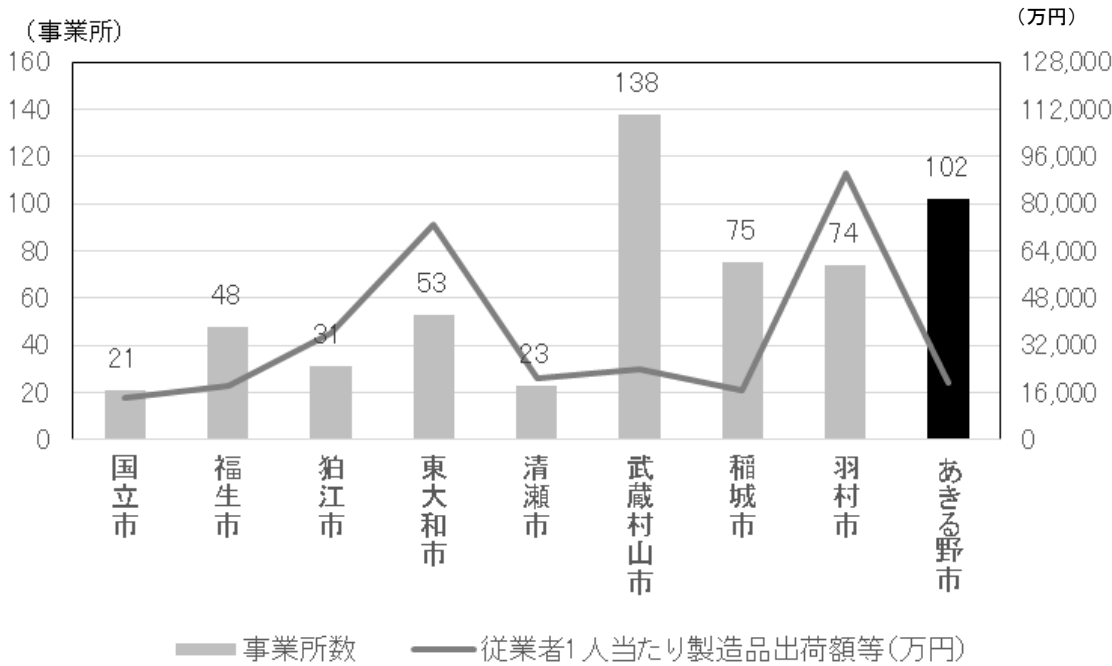
■産業構造（総務省「経済センサス」）

- ・産業構造について、事業所数は、卸売業及び小売業が24.2％、従業者数は、医療及び福祉が20.3％と最も高くなっています。

	平成28年			
	事業所数 (事業所)	割合 (%)	従業者数 (人)	割合 (%)
全産業(公務を除く)	2,349	-	21,510	-
農業, 林業	7	0.3	51	0.2
漁業	-	-	-	-
鉱業, 採石業, 砂利採取業	-	-	-	-
建設業	378	16.1	1,888	8.8
製造業	226	9.6	3,219	15.0
電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.1	28	0.1
情報通信業	18	0.8	177	0.8
運輸業, 郵便業	32	1.4	737	3.4
卸売業, 小売業	569	24.2	4,193	19.5
金融業, 保険業	27	1.1	304	1.4
不動産業, 物品賃貸業	96	4.1	380	1.8
学術研究, 専門・技術サービス業	88	3.7	492	2.3
宿泊業, 飲食サービス業	257	10.9	1,957	9.1
生活関連サービス業, 娯楽業	216	9.2	1,547	7.2
教育, 学習支援業	70	3.0	530	2.5
医療, 福祉	210	8.9	4,365	20.3
複合サービス事業	18	0.8	741	3.4
サービス業(他に分類されないもの)	135	5.7	901	4.2

■工業（総務省「経済センサス」）

- ・平成28年における工業（製造業）について都市間比較すると、事業所数は2番目に多く、その一方で、従業者1人当たり製造品等出荷額は6番目となっています。



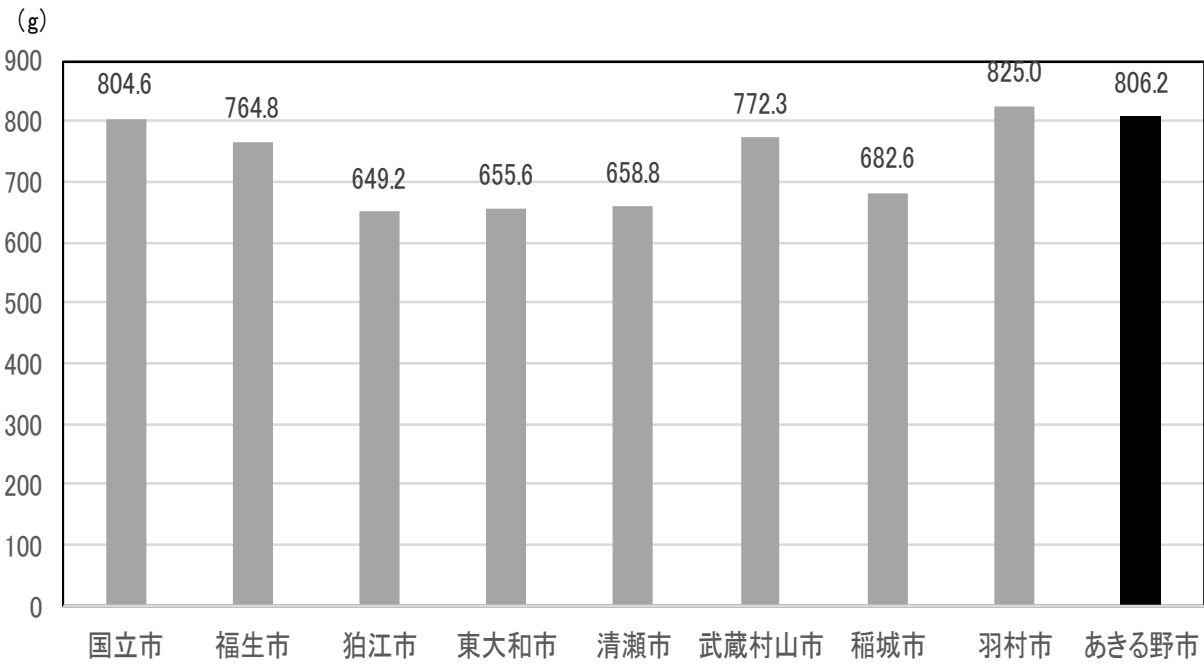
■公害苦情件数（環境経済部生活環境課）

- ・公害苦情相談件数を見ると、おおむね横ばいであり、「焼却」及び「その他」（雑草繁茂等）に対する苦情が多くなっています。

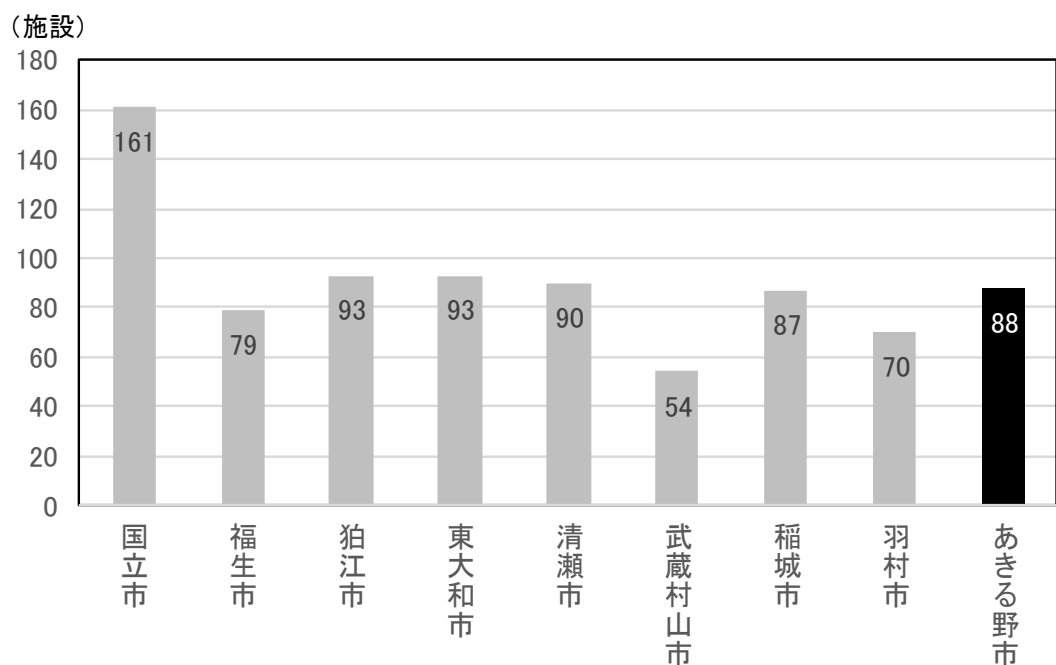
	総数	大気汚染		汚水	悪臭	騒音	焼却	その他
		ばい煙	粉じん					
平成24年度	161	3	2	1	16	15	28	96
平成25年度	171	-	2	1	12	20	31	105
平成26年度	145	-	3	1	7	18	37	79
平成27年度	171	-	3	1	6	21	45	95
平成28年度	175	1	3	1	7	18	45	100

あきる野市の現状について（その他の参考データ）

■家庭ごみ収集量（東京都「東京都統計年鑑 平成28年」他）
・平成27年度における1人1日当たりのごみ排出量を都市間比較すると、本市は2番目に多くなっています。



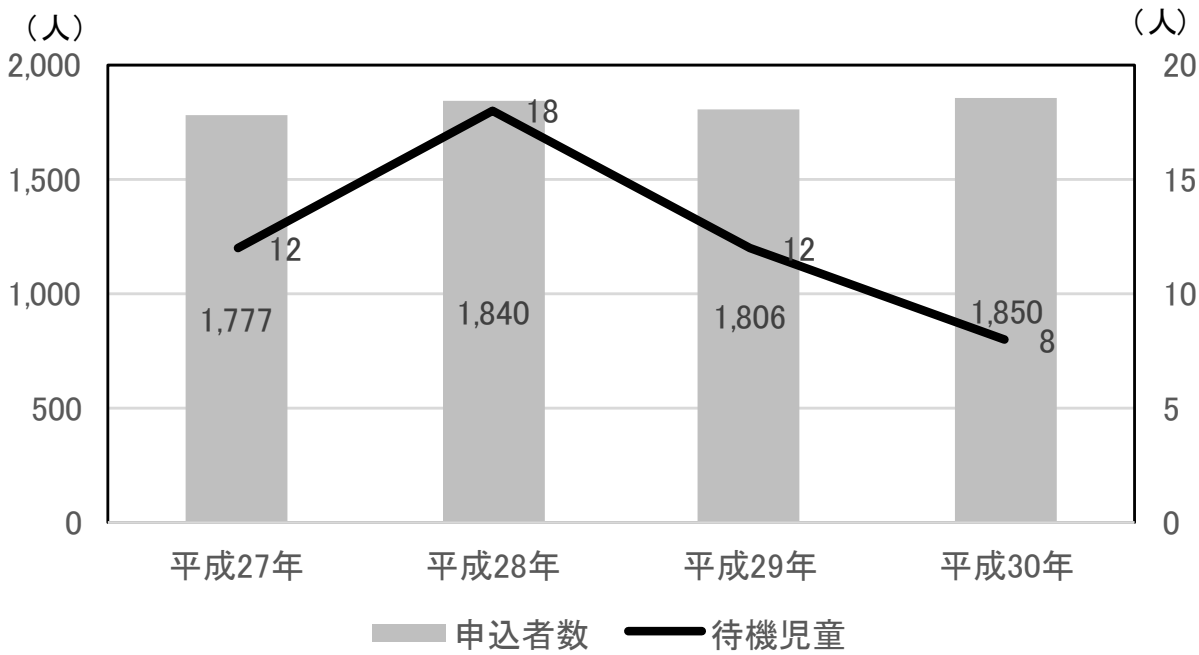
■医療施設数（東京都「東京都統計年鑑」）
・平成27年における医療施設総数を都市間比較すると、本市は中位に位置しています。



■高齢者福祉施設数（厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」他）
・平成29年の高齢者福祉施設数を都市間比較すると、本市は最も施設数が多くなっています。

	(施設)			
	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
国立市	3	4	4	4
福生市	5	5	5	5
狛江市	2	2	3	1
東大和市	5	5	5	6
清瀬市	8	9	9	9
武蔵村山市	6	5	6	6
稲城市	5	5	5	5
羽村市	3	3	5	5
あきる野市	16	17	17	17

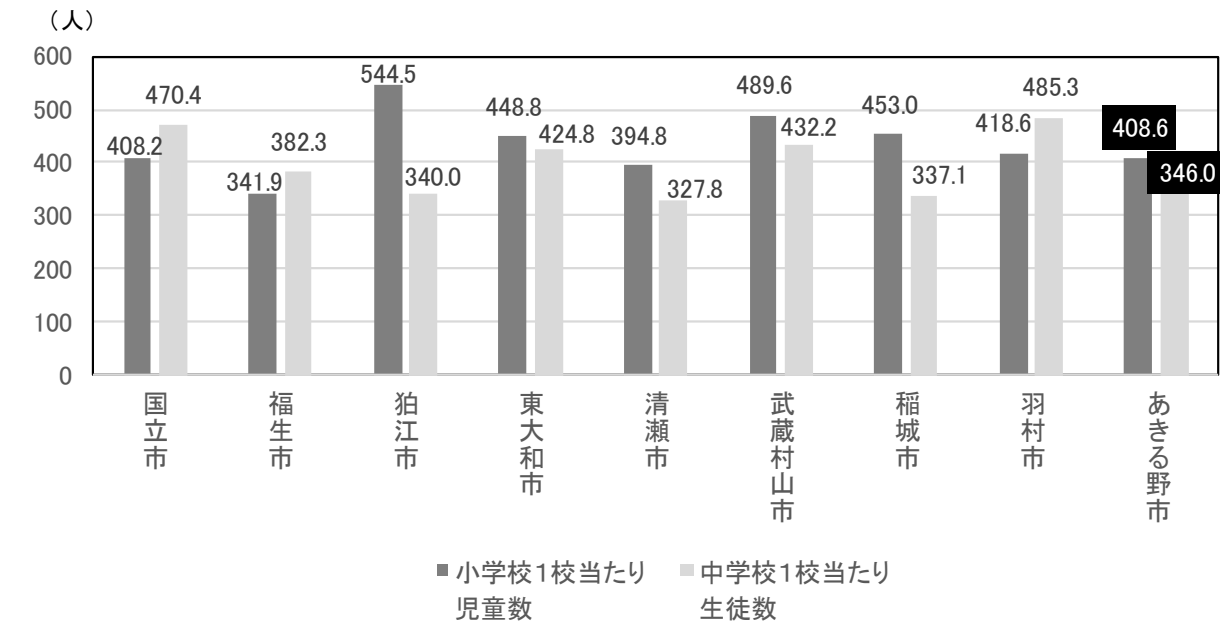
■待機児童数（厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ」）
・待機児童数の推移を見ると、平成28年以降減少傾向にあります。



あきる野市の現状について（その他の参考データ）

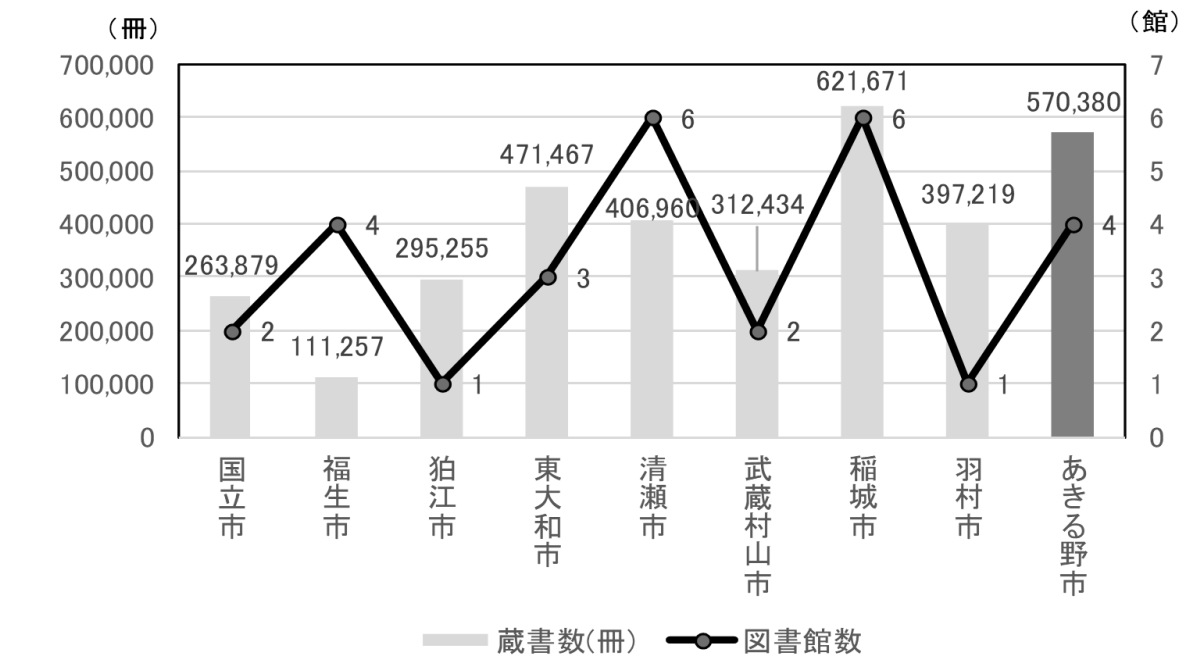
■義務教育（文部科学省「学校基本調査」）

- ・平成29年度における小学校・中学校の1校当たり児童・生徒数を都市間比較すると、本市はいずれも中位に位置しています。



■図書館（東京都「東京都統計年鑑」）

- ・平成28年度における図書館数等について都市間比較をすると、本市の図書館数は3番目であり、蔵書数は2番目に位置しています（※ 1）。



■歳入（決算額ベース（単位：百万円）、総務省「市町村決算カード」）

- ・歳入を見ると、合計額が平成27年度から平成28年度にかけて減少していますが、内訳を見ると、依存財源である地方債の減少が要因であり、自主財源割合は、38.8％から45.5％に改善しています。

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
自主財源	地方税(市税)	10,645	10,593	10,672
	その他自主財源	2,572	2,101	2,833
依存財源	地方交付税	4,076	4,023	3,683
	国庫支出金	4,365	4,067	4,067
	都支出金	5,338	5,121	5,049
	地方債	2,037	4,423	1,290
	その他依存財源	1,587	2,384	2,087
合計		30,619	32,712	29,681
自主財源割合(%)		43.2	38.8	45.5

■歳出（決算額ベース（単位：百万円）、総務省「市町村決算カード」）

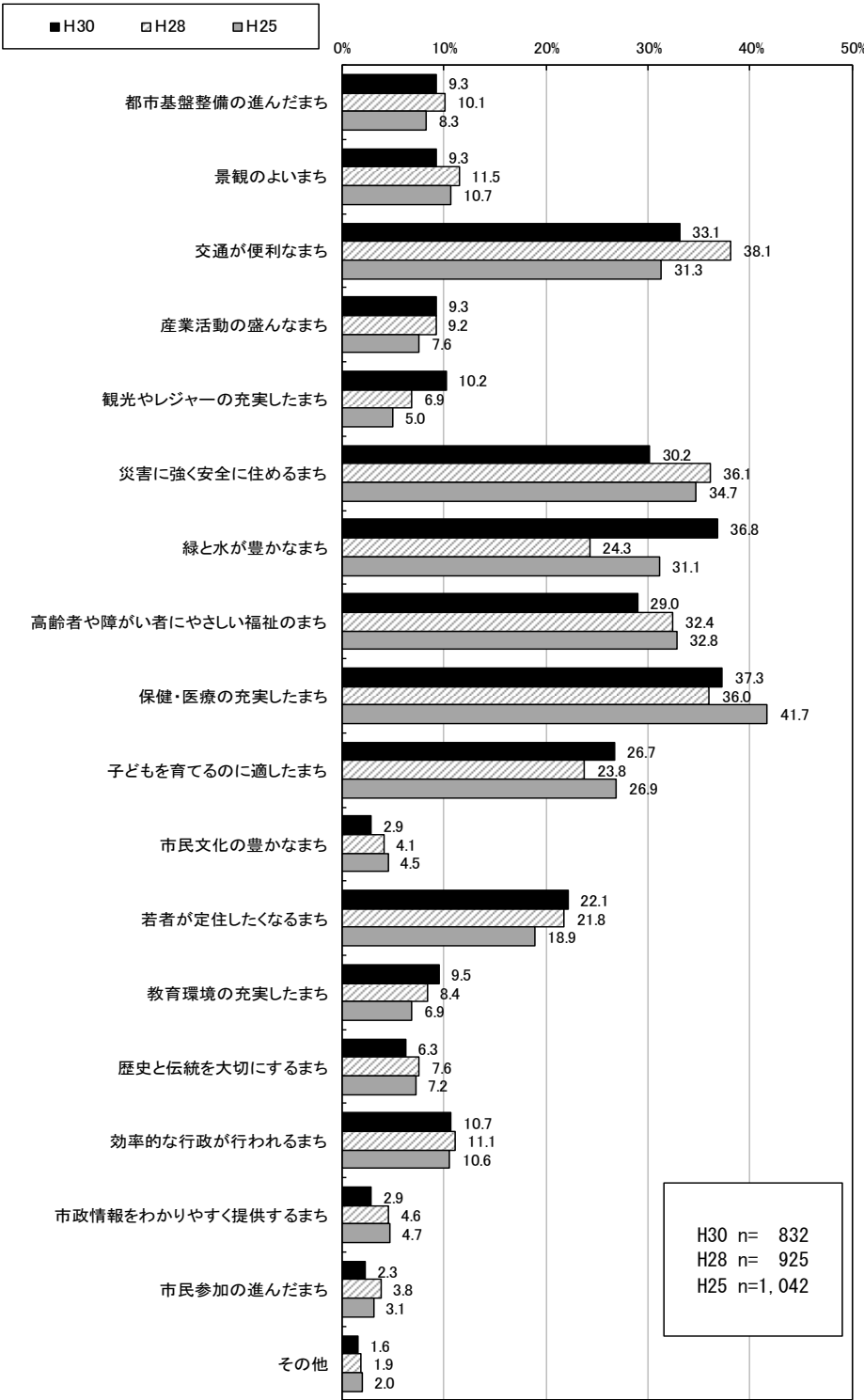
- ・歳出を見ると、歳入と同様に平成27年度から平成28年度にかけて減少していますが、義務的経費（人件費、扶助費、公債費）の占める割合は、扶助費の増加等に伴い48.2％から52.2％に増加しています。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
人件費	4,132	4,116	4,037
扶助費	8,137	8,196	8,389
公債費	2,745	3,045	2,852
物件費	3,909	4,033	3,982
繰出金	3,755	4,002	4,134
普通建設事業費	3,342	2,610	1,545
その他	3,839	5,842	4,337
合計	29,861	31,843	29,276
義務的経費割合(%)	50.3	48.2	52.2

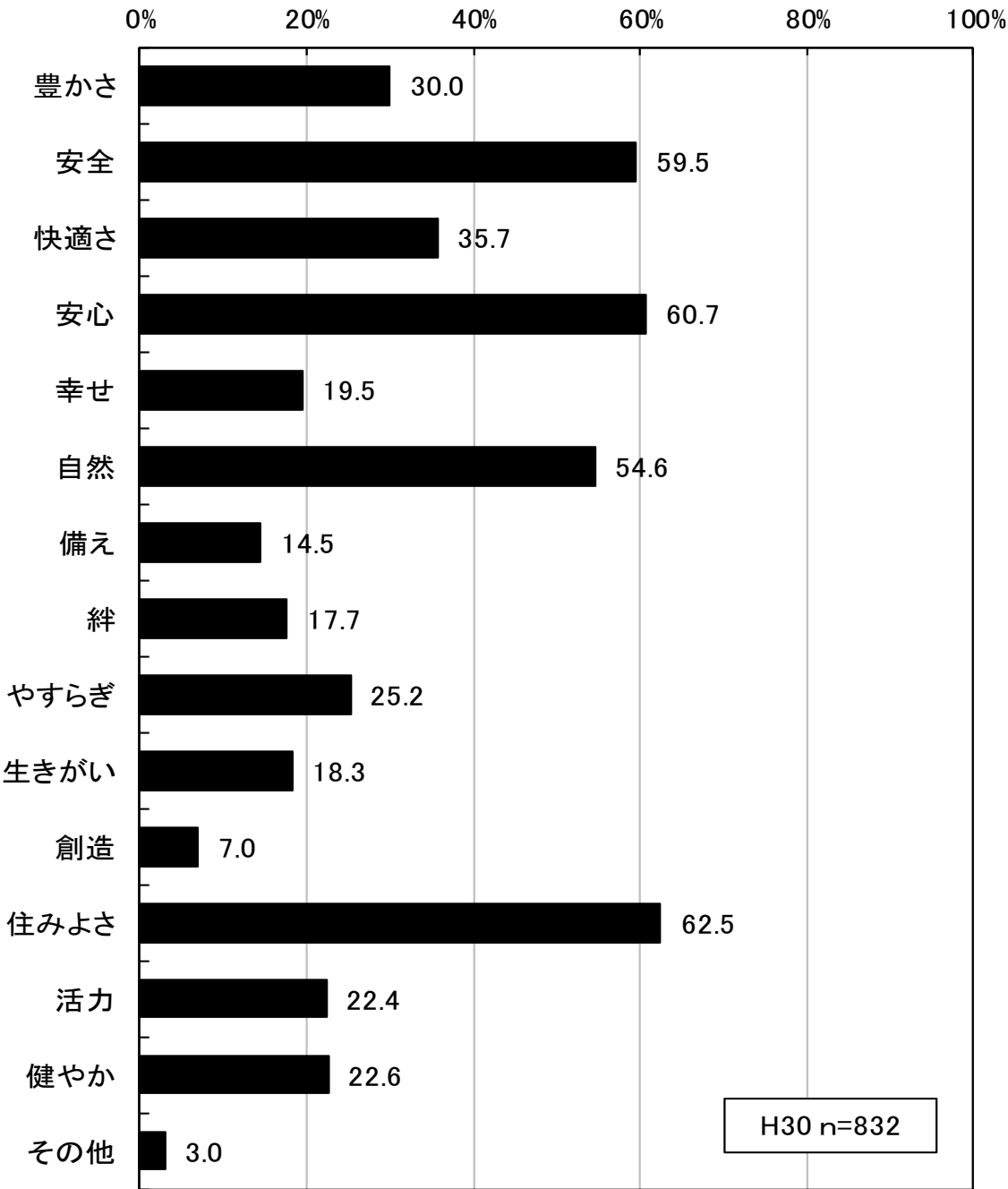
あきる野市の現状について（その他の参考データ）

◆今後のまちづくりに対する市民の意向（市民アンケート）

- あきる野市をどんなまちにしたいかについて（該当するもの3つ）
- ・「保健・医療の充実したまち」が**37.3%**と最も高く、次いで「緑と水が豊かなまち」が36.8%となっています。
 - ・平成25年調査では「保健・医療の充実したまち」、平成28年調査では「交通が便利なまち」がそれぞれ最も高い割合となっています。



- あきる野市が目指していく将来像について（あてはまるものすべて）
- ・「住みよさ」が**62.5%**と最も高く、次いで「安心」が60.7%、「安全」が59.5%となっています。



あきる野市の現状について

◆参考（強み・弱みの根拠となった、「あきる野市次期総合計画基礎調査報告書」における該当部分）

【あきる野市の強み（S）】 ○東京都の縮図のような多様な環境（都市環境、山林、川）【67頁】 ○恵まれた自然環境【27、67、96頁】 ○比較的安価な地価【67頁】 ○豊富な観光資源（東京サマーランド、秋川渓谷、バーベキュー場等）【44～45、67頁】 ○一般国道468号（圏央道）の整備効果による高い交通利便性と交通量の増加【29・67頁】 ○町内会・自治会加入率の高い地区が多い【67頁】 ○地域コミュニティの強さ【67頁】 ○良好な治安（多摩地域内でも相対的に低い刑法犯認知件数）【47頁】 ○都内屈指の長い健康寿命【54頁】 ○先端技術（ドローン）活用に向けた研究・開発【14頁】	【プラスの外部要因（O）】 □地方創生の推進 □持続可能な開発目標（SDGs）の推進 □働き方改革の推進による一億総活躍社会の進展 □インバウンド観光の活況とコト消費の広がり □シェアリングエコノミーの広がり □東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催 □「関係人口」の増加 □ICT、IoT、AI活用の進展
【あきる野市の弱み（W）】 ●自然動態（出生減・死亡増）の悪化に伴う人口減少【15、21頁】 ●人口減少に伴う空き地や空き家増加の懸念【15、21、36頁】 ●商店街組織等の衰退【41、68、84頁】 ●農業経営者の高齢化【39、84頁】 ●市内外へのアクセスの不便さ【68、91頁】 ●高齢化の進展等に伴う市民活動の停滞【68、83、85頁】 ●老朽化した公共施設等の更新【7頁】 ●財政基盤の弱さ（実質公債費比率、将来負担比率等）【65、91頁】	【マイナスの外部要因（T）】 ■全国的な人口減少・少子高齢化の進展 ■地方創生の本格化がもたらす自治体間競争の激化（定住人口増加策、シティプロモーション戦略の展開） ■人口減少に伴う消費縮小と人手不足の深刻化 ■社会資本の老朽化 ■ICT、IoT、AI活用に伴う社会変化への対応（産業・就業構造の転換に対応できない労働者が発生した場合のフォロー等）

※表中の【○頁】：「あきる野市次期総合計画基礎調査報告書」のうち、上記まとめの根拠となった箇所を表しています。